

学校法人 木下学園 カナン国際教育学院

2020年度 自己点検・評価

5：達成している／4：ほぼ達成している／3：どちらともいえない／2：取り組みを検討中／1：改善が必要

1. 教育の理念・目標等		評価
1-1	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-3	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-4	学校の将来構想は策定しているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は進学に特化した日本語教育機関であり、学校理念の一つに「世界で活躍できる人材の育成」を目指すということを掲げている。

年々変化する社会のニーズを的確に捉え、その時代にあった人材を育成・輩出するため、常に新しい情報をもとにした教育手法等を柔軟に取り入れている。

実際の授業においては、座学での日本語学習のみならず、学校行事を通じた体験型学習の機会を設け、日本の文化や習慣、ビジネスマナーなど多岐に渡り指導している。

学校理念は、その設定意図や意味について全教職員はじめ学生へも繰り返し伝えるため、全教職員が出席する半年に一度の会議の場や入学式等の式典の際にも説明の機会を設けている。また、常に学院全体として学校理念に対する共通認識を持てるよう、各国後に翻訳した学校パンフレットへの記載、ホームページへの公開、学内各所への掲示など明文化を行っている。

それに加え、全専任教職員が作成する自身の評価用目標管理シートにおいては、学校理念・教育目標をブレイクダウンした各部の目標が設定されており、それをもとに各専任教職員が各自の目標を設定をしている。

本校の将来構想は、中長期計画にて以降10年の計画をしており、半年に一度の全教職員会議の場においてその進捗度合いと新たな計画や変更点についても明示し、共有している。現状維持を求めめるのではなく、常に進化を求め、更に良い環境、教育を全学生並びに全教職員に提供するために、教育機関としての体制を強化することを目指している。

2. 学校運営		評価
2-1	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
2-2	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5	コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6	危機管理体制は整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校では、日本語教育機関の告示基準を満たしている。主に、校長と各部部長が告示基準の担当となり、あらゆる面において告示基準から逸れることがないように精査するとともに、全専任教職員が告示基準について理解をし、実行ができるよう、告示基準の勉強会も行い、周知をしている。

意思決定システムについては、ボードメンバーを主軸とするトップダウンとボトムアップ双方のメリットを生かしたシステムが有効に機能しており、各部部長が方針を示すことも実務担当者が意見を出すことも積極的に行われ、円滑な学校運営ができているとともに風通しの良い組織風土が育っている。

危機管理体制について、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用している。年2回の避難訓練、年1回の防災体験を引き続き実施。2019年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染症対策についてもマニュアルへ追加することとし、さらなる体制強化につとめるとともに、その対策や状況についてホームページでの公開をおこなった。また、情報共有の面において、災害による休校などの際には、学校のSNSを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。

コンプライアンスとしては、毎年外部の講師を招き、ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティの研修を行なっている。

IT化は引き続き推進中であり、新たなツールやシステムについては、リスクや運用方法を十分検討しつつ、積極的に導入をしている。学校内で扱うデータについては、サーバー上のデータを全てクラウド上へ移行し、一元管理することでさらなるセキュリティ強化・効率化をはかった。

3. 教育活動

評価

3-1	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	5
3-3	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	5
3-4	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、日本語だけでなく日本の文化や日本を理解すること、そして世界で活躍できる人材として通用する多種多様な学習、活動を設計・設置している。本校には初級コースから特進コースまであり、それぞれのコースで教育目標達成に向けたカリキュラムを作成するなど、JLPTに準拠しつつも学生のレベルに合わせた細かいカリキュラム設計を行っている。また、メインテキストに応じた副教材・確認テスト・復習テストを作成して、全コースで予習→授業→復習という一連の流れを確立している。そのことにより、一日24時間と限られた時間の中で、効率の良い学習環境を整えている。

特進クラスは年度毎に形態・基準を変化させながら進化し続けてきた。その結果が合格実績として表れつつある。一般クラスでもEJUやJLPTの成績が伸びてきているのは、講師の高い定着率に伴う講師間の意思統一が成せる結果だと思う。

4. 学修成果

評価

4-1	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4-2	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	5
4-3	進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

学生の入学から修了・卒業までの学習成績の記録をデータベース化し、管理システム及びクラウド上で管理している。それにより、EJUやJLPT等の外部試験の成績を随時把握出来るようになってきている。

本校ではEJUとJLPTの結果を特に重視しているため、EJUとJLPTを意識したカリキュラムを作成し、運用している。また、試験前には試験対策や模擬試験などを行い、学生の進学希望を叶えるために最大限の支援を行っている。

進路指導においても、進学希望先一覧をデータベース化し、すぐに現在の進学希望先がわかる仕組みとなっている。そして、毎回面談記録を残し、誰がどこまで指導を行ったのかを共有している。こちらもクラウド上で管理することによって、全教職員がいつでも閲覧できるようになっている。

5. 生徒支援

評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	4

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナ禍において、2020年3月いち早くよりオンライン授業の体制を整え、緊急事態宣言下でも学生たちの授業時間を可能な限り予定通り確保した。また、緊急事態宣言が解除されたのち、対面授業の再開を決定し、その際には感染防止策として、教室や校内全体にわたって消毒を行い、検温などの健康観察も含めた学生管理のさらなる強化を行った。

学生の生活面においてもケアを手厚く行い、コロナ感染者が1名出た際には、即オンライン授業に切り替えるなど迅速な判断・対応を行なったことにより本校での学生、教職員への感染拡大・クラスター発生は防ぐことができた。

また、アルバイトができないなど生活に困窮する学生へのケアとして、学生支援緊急給付金制度などの申請を積極的に行った。

犯罪防止教育においては、警視庁の方に来校いただき、犯罪防止における注意喚起をしていただいたり、本校独自でも学生へ長期休み前の注意事項喚起説明会などを開催し、犯罪の抑制につとめた。

6. 教育環境

評価

6-1 学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか

5

6-2 実際に使用している教材は適切であるか

5

6-3 学習効率を図るための環境整備はなされているか

5

《現状・具体的な取り組み／課題》

校舎内教室等施設については「日本語教育機関の運営に関する基準」、並びに「日本語教育機関審査内規」の定めるところを十分に満たしている。自主学習についてはさらに視聴覚教材等を整え、学生が利用できるよにしてある。図書室には、随時新刊を取り揃え、自主学習の場として提供をするだけでなく新たな学びのきっかけ作りも行っている。校舎内で設備等の不具合が見られる場合には、即時修繕対応を行うこととしている。

7. 入学者の募集

評価

7-1 入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか

5

7-2 募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか

5

7-3 授業料は適切であるか

5

7-4 定員数に応じた募集活動は行っているか

5

《現状・具体的な取り組み／課題》

2020年度の学生募集については、コロナ禍での募集にもかかわらず、本校の目標人数を達成することができた。

現地へのオンライン説明会の積極的な開催と学校の授業料を据置としていることは、学生募集において非常に大きなメリットとなった。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、入学時期の遅延やキャンセルなども相次ぎ、2020年度の学生募集はこれまでにない苦境におかれていたといえる。

この状況が今後も続く見通しであり、学生募集を上手く進めるためには、新たにより多くの市場を開拓するとともに現状の進学実績等をうまくPRし、より多くの学生に学校の魅力を伝え続ける必要がある。よって、さらなるIT化・情報収集力の強化を行うことが不可欠となるため、次年度以降も力を入れていく。

8. 財務

評価

8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
8-3	財務について、会計監査は適切に行っているか	5
8-4	財務情報の公開の体制は整っているか	2

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナ禍という特殊な情勢においても、顧問税理士との連携のもと雇用調整助成金等各種助成金・補助金等を最大限活用することにより財務への影響はおさえられた。理事会及び評議員会で承認された予算・収支について、2020年度は感染症対策に予算をあてる割合も多かったが、ほぼ計画通りに推移することができており、その有効性・妥当性についても問題はない。

なお、財務情報の公開については、現状取り掛かっているホームページ更新が完了したら公開する予定である。

9. 法令遵守

評価

9-1	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	4
9-2	個人情報の保護の取り組みは行っているか	4
9-3	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9-4	自己点検・評価の公開は行っているか	5
9-5	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	4

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は各種学校の日本語学校として、東京都、法務省の法令、設置基準を満たしており、また、法務省からは2005年以降適正校としての認定を受けている。今年度も適正校の認定を頂いており、16年連続での認定となった。

個人情報保護においては、本校の方針として、さらなるペーパーレス化を推進中であり、紙での運用を徐々に減らし、紛失による漏洩・汚損等によるリスクを最小限におさえている。個人情報含めたデータ上の管理・破棄のルールに関しても、本校のボードメンバーを中心に各部で指導を行い、個人情報保護についての規程も設けている。

また、新たな学生管理システムを導入することで、従来書類管理必須であったものを可能な限りウェブ上の管理に移行していく。さらにこの学生管理システムでは、関係省庁への届出・報告に関しても所定フォーマットを利用した対応が可能で、セキュリティ強化のみならずより適切・厳正な管理体制が構築されることも期待できる。

これらを含むウェブ上での個人情報管理については今後より強化すべく、引き続き専門の方のアドバイスを受けながら最適な管理運用に努めていく。

一方、学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおける説明（母国語）やクラスでのホームルームでも随時指導を実施。大型の休みに入る前にも必ず注意事項の説明を行なっている。特に、身分証明書等の管理については何度も繰り返し指導を行うようにしている。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

10-1 学校の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は行っているか

4

10-2 生徒に向けてボランティア活動への奨励・支援は行っているか

4

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校の目の前にある都立城東高校さんとは、本校敷地内の設備を一部提供するなど関係を深めており、今後さらに交流を深めていきたいと考えている。

また、近日中に飲料水等の備蓄品を校内に置くこととしており、これらを災害時地域の方々へ向けた支援にも役立てる予定。

半年に一度、全専任教職員での清掃を行う際には、学校付近の除草やゴミ拾い等も実施しており、周辺環境の美化にも貢献できている。

前年度に引き続き、異文化交流・コミュニケーションを目的として、日本人大学生と本校の生徒が交流することができる活動を年に2回、本校校にて開催。日本人大学生にとっては外国人留学生と、本校の生徒にとっては日本人のことをよく知ることができる、とても良い機会になっており、今後はオンラインでの交流なども活用しより親交の幅を広めたい。

また、週末においては、中国語教室に場所を提供しており、日本で暮らす未就学児から中学生まで、多くの子供達が勉強する場となっている。

2020年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響も大きく受けており、積極的な交流の場を設けることが難しくもあったが、オンラインシステムの活用なども視野に入れ、本校の学生に向けてもボランティア活動等の奨励を行っていきたい。

本校には3つの学院目標がある。

- 1.「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
- 2.本校の学生、教職員、関わる全ての方に最適な環境を提供する。
- 3.東京都を代表する日本語学校になる。

この3つの学院目標を覚え、教職員一同全力で学院目標の実現に向けて取り組んでいる。特に、2については、「学生の満足度を上げるためには教職員の満足度も上げる必要がある」という考えのもと、教職員の満足度を上げる取り組みも十分に行なっている。

(2020年度は、各部部长が自部署・他部署から評価されるアンケートを実施し、各部の運営に活かすことができた。また、学生・教職員へのアンケート、ウェブ上意見箱の運営も継続して実施し、経営・学校運営の指標の一部とすることができた)

また、学生向けの教育理念も3つある。

- 1.「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
- 2.日本語教育を通じて、日本社会で自立できる人材を育成する。
- 3.学生の目標とする進学先合格に向けて最大限支援を行う。

この3つは教職員だけでなく、学生にも覚えてもらっている。特に、3については、本校の大きな強みであり、2020年度は、次世代を担う若手教員の採用及び指導力向上のための研修や、特進クラスの設置も行った。学生と教員一対一での進学サポート・指導プログラムをオンラインと併用で実施し、学生アンケートでの満足度も例年以上に高い結果を得られた。これらの取り組みにより、2019年度81%だった志望校への進学率は、2020年度においては88%という成果を上げることができた。

次年度以降も、これらの目標達成に向け、さらなる組織力・教育機関としての体制強化を目指し、学院一丸となり力を入れ取り組んでいく。